

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600168		
法人名	医療法人 竜門堂		
事業所名	竜門堂 グループホーム あったか荘		
所在地	佐賀県武雄市山内町大字三間坂甲13842番地12		
自己評価作成日	令和3年1月25日	評価結果市町村受理日	令和3年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和3年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの持たれている能力を活かし、少しでも認知症の進行を予防しながら穏やかな生活を送れるよう支援したい。家族様に安心して頂けるよう医療との連携を図りながら健康管理に努めていきたい。また気軽にいつでも訪問できるような対応と雰囲気づくりに心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景が一望するホームは2ユニットで、行事の時は敷居の壁を外し、広々とスペースで行っている。また、ベランダの窓や天窓からも陽光が入り、明るく解放感がある。コロナ禍で面会制限のある中、職員は、家族の代わりにできることは何かを問いながら、入居者の寂しさにも寄り添い、心のこもったケアを行うよう努めている。医療機関と連携し、入居者や家族にとって最善の方法は何かを、常に模索している。「一緒に、楽しく、のんびりと」という理念の下、入居者の思いを優しく包み込み、日々笑顔で向き合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、介護の原則、接遇目標を荘内に掲示して毎朝申し送り時に唱和している。掲げている理念をしっかり受け止め、入居者様がゆっくり、穏やかに生活出来るように実践につなげている。	理念等を毎朝の申し送り時に唱和している。実践に繋がるよう、定期的なレポートや月別の個人目標を決めて、振り返りや研鑽を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の除草作業やゴミ収集所の清掃などは参加しましたが、今年はコロナ禍の為に荘の行事など地域の方の参加は中止しました。	コロナ禍で、これまで行っていた地域清掃やホーム行事のボランティア参加、中学生の職業体験や高校生のインターシップ等を中止したが、介護実践者研修の受け入れは継続して行い、地域社会への貢献に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆様に認知症の理解や支援方法を荘内に訪問された時に活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しているが、地域・行政の参加は今年度は1回のみで会議録を送付している。意見をサービス向上に活かしていきたい。	コロナ禍のため対面での会議開催は1回のみであったが、会議録を全家族に郵送するなど、情報発信に努めている。コロナ禍前は、家族や地域、行政の方々が参加し、意見や要望、地域情報などをサービス向上に活かしていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の福祉課担当者は運営推進会議の参加や生活保護担当者は電話での情報交換を行いながら協力関係を築いている。	市町村の福祉担当者や介護保険事務所とは、適宜電話等で情報交換を行い、ホームの利用状況の報告や制度上のアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは運営推進会議やミーティング時や院内勉強会に参加して職員は理解・周知している。入居者様の拘束にならないケア法を話し合いしている。玄関のタッチセンサーについては事前にご家族に説明・理解して頂いている。	定期的な勉強会で、身体拘束や虐待について職員全体で理解を深めるよう努めている。しかし、玄関の自動ドアはタッチセンサー式で、スイッチの場所が分かりづらく、入居者が自由に出ることが難しい。	タッチセンサーのスイッチに置き場所について、入居者が自由に出入り出来るような工夫の検討に、期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止はミーティングで話し合っている。心理的虐待は何気ない声かけも虐待に繋がる事を意識して対応する。職員間での声掛けもパワハラにならない様に気を付ける事を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様には実際成年後見制度を利用されて入所されています。権利擁護に関する制度は研修で学ぶ機会がありますがもっと理解を深める必要があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては入居時に管理者が家族様に説明して、理解、納得して署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度はコロナ禍でなかなかご家族との面会が出来ない状況の中、利用者様やご家族の要望など受け入れ出来る事をしました。面会もオンラインで出来る体制を整えました。	オンラインや窓越しの面会時に、入居者や家族の要望を聞き運営に反映している。また、毎月のお便りに、写真や健康チェック記録表を同封し、会いに出来ない家族にも入居者の様子を伝え、要望を聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、要望はミーティング時やその都度聞いて、法人の代表者に報告、相談して意見を反映出来るようにしている。	管理者は相談しやすい雰囲気心を掛けており、必要に応じて、管理者ではない他の職員が意見を聞くこともある。また、話し合った意見を管理者が事務長に報告し、組織的な対応を心掛けている。雇用形態にかかわらず、すべての職員に有給が取れるよう配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者に勤務状況や個々の努力や実績を報告して、対応している。有給を取得出来る勤務体制も整えている。コロナ禍で職場や法人全体での交流は行われていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は資格取得や研修参加に補助金の支援を行い、個人の向上心を高めるよう推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ禍で県のグループホーム協会の研修も参加は出来ませんでしたが、終息してからは、参加しようと思います。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人の要望をお聞きして、安心して頂けるようにしている。ご自分で訴え出来ない方はご家族にお尋ねして落ち着いて生活できるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の困っている事や要望や不安などお聞きして、安心して生活出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医、担当の介護支援専門員、管理者がご本人、ご家族に状況などお聞きして入居が望ましいか、他のサービス利用が望ましいか見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であり、敬い、介護している立場にならないで、一緒に生活している気持ちで対応するように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は面会が出来ない状態なので、お支払いや用事でおみえになられた時に玄関先で状況をお伝えしている。ご家族に電話でお尋ねする事もあり、共に支えていく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在面会や外出が出来ず閉ざされている状況の中淋しい思いをされていますが、オンライン面会や写真を同封して喜ばれている。電話が出来られる方は話され馴染みの方と関係が途切れないよう支援している。	オンラインや窓越しの面会、電話や手紙、年賀状等で、家族や馴染みの人との関係を継続出来るよう支援しており、写真を送ることで、遠方の家族にも大変喜ばれている。コロナ禍前は、買い物支援や家族との外出、外泊も行われていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係を把握して食卓の場所など、孤立されない様に配慮している。レクリエーションや行事など合同で参加されるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去されても、法人の病院には面会にいたり、ご家族とお会いした時は会話したり状況の交換をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握に努めているが、コロナ禍で受け入れが困難である事も説明し、理解して頂いている。	入居者一人ひとりに寄り添い、言葉だけでなく、表情や仕草からも希望や意向を把握するよう努めている。現在はコロナ禍で制限される中、家族と協力しできるだけ入居者の思いを実現できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族、介護支援専門員に生活歴や暮らし方、サービス利用の経過などお聞きして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態に合わせて出来られる事をして頂き、出来られない部分を支援して入居者様が穏やかに生活されるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族に意向をお聞きして、主治医の意見を組み込み、担当者会議を開催して職員の意見を反映させ介護計画を作成し、ご本人・ご家族に説明して署名・捺印を頂いている。現在は電話で意向など尋ね、郵送している。	計画作成者と担当職員を中心に、入居者や家族の意向に沿ったプランを作成している。また、月別の評価や支援経過なども詳しく記録しており、日々の気づき等を記す個別対応意見ノートも参考にしながら、適宜プランを見直し、統一したケアを心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の健康チェックや生活状況を介護計画にそって記録を行い、職員間で情報を共有(申し送りノート)しながら実践して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会出来る時はご本人、ご家族の希望・相談に対応していたが、現在は電話や玄関先での受け渡しでの対応しか出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は地域との関わりが出来てない為、今後の事を検討していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	竜門堂医院から定期的の訪問診療を受けている。体調異常時は上申して往診を受けられ適切な医療を受けている。	入居時に本人や家族と話し合い、主治医の継続や変更について納得を得よう努めている。月2回の往診と併せて、急変時の対応も整備されている。皮膚科等の専門医の受診は家族で行うが、必要時は職員が付添い、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態の変化や異常時は看護職員に伝え相談し、また、看護師長や訪問看護師に報告して適切な受診が出来ている。法人内の医療連携で24時間の体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調異常時は法人の病院に入院できるようにしている。退院時は院長や師長から状態報告され退院されている。他の医療機関から入居された時は 担当の介護支援専門員や病院関係者から心身の状態などの情報交換や相談を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については入居時に説明をしている。状態悪化された時は主治医から、説明されてご家族の希望を受け入れながらチームで取り組んで支援している。	ホームでの看取りを行っている。重度化した場合や終末期の在り方について、本人・家族と適宜話し合い、希望や意向を尊重した支援を行っている。また、24時間対応の協力病院や訪問看護とも連携し、夜間の急変時にも対応できる体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、全職員がミーティング時に緊急時の対応の勉強会や朝の申し送り時に情報の共有が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行ない身につけ、消防機器の説明なども受けている。地域や消防団の協力体制をお願いしている。	年2回の火災避難訓練を行い、コロナ禍前は地域住民や消防署も参加する等、地域との協力体制も築いている。また、各居室やトイレなどの表札に、災害があった際入居者の有無を確認するカードを設置し、スムーズな避難誘導が行えるよう工夫している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した声掛けを心掛けるようにしているが時々同士になりがちな場面も見受けられます。排泄の声掛けは特にプライバシーを損ねない対応に十分注意するようにしている。	入浴時には体の前にタオルを掛けたり、排泄時には尿や便とは言わず、言い換える事で羞恥心に配慮している。しかし、職員の接遇への意識が、さらに高められるような話し合いや振り返りを行う機会は十分とは言えない。	職員の接遇について、さらなる向上ができるよう、話し合いや振り返る機会の確保に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ入居者様の思いや希望は受け入れているが、出来ない場合は説明して理解頂いているが、伝わらない時もあり、その時は状況にあった対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度、職員側の決まり事はあるが、ご自分のペースで生活されている入居者様のペースを崩さないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはご自分で洋服を選ばれ、重ね着したり、化粧される方、男性の方は毎朝髭剃りをされている。殆ど衣類の準備は職員が行い、着衣された時に色や柄を伝える事も重要であり、身だしなみの支援をしたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事が入居者様の一番の楽しみであり、メニュー表で確認されている。食事の形態が低下されている方が多いため、介助中説明している。準備・後片付け(お盆拭き・テーブル拭き等)入居者様にしている。	3食手作りで、入居者と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。また、施設の畑で採れた野菜や果物を使った料理や、季節行事の品を提供し、入居者に喜ばれている。おやつでは、どら焼きやホットケーキ等を入居者と作り、食べる楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉・魚・季節野菜を使用して家庭的な献立を考え、入居者様の状態に合わせた形態で提供している。水分も体調や摂取量にあわせてお茶やスポーツドリンク・コーヒーなど提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は理解している。毎食後、一人ひとりの口腔状態を把握して、声掛けケアを行っているがその時の状況で出来ない時もある。状態に応じて口腔用具も使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレで出来るだけ失敗のない排泄を行っている。下肢筋力低下されている入居者様は夜間ポータブルトイレの使用やパット交換での支援をしている。	個々の排泄パターンや状態を把握し、情報共有を行いながら、できるだけトイレでの排泄を支援している。また、バルーンを付けていた入居者が、医療職とも相談し、本人の尿意を注意深く観察することで、バルーンを外して自然排尿できるようになったこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	座位での時間が増え運動量が減少して、便秘されている入居者様は多く、食事・水分・運動の工夫をしている。便秘の及ぼす影響は理解している為、個人の状態により主治医に相談して下剤・座薬を使用されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望により入浴される事が理想ですが、入居者様の身体状態により、入浴日を決めている。入居者様のその時の状況や皮膚疾患の状態でタイミングをみて声かけして、気持ち良く入浴されるように支援している。	週3回の入浴を基本とし、入居者の状態により一般浴や機械浴、清拭や足浴なども行っている。また、浴槽も広く、1人ずつゆったりと入っている。入浴を拒否する方でも、適切な声掛けとタイミングで心地よく入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況・身体状態に応じて居室で休息されている。夜間入眠が浅い方は主治医に相談して眠剤使用されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用されている薬や副作用は薬の説明書により理解するようにしている。服薬介助時は誤薬しないように配薬時は名前・日付けを声にして行っている。入居者の異常時は主治医に報告して処方されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が出来る事を把握して作業など行われている。レクリエーション参加は入居者様の好まれ事、得意な事は声を出して楽しまれている。日々気分転換になるように関わりを持っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出される事が出来ない状態で精神的に落ち込まれた入居者様もありました。気候がいい時は荘の周囲を散歩したり、ベランダに出て日光浴などで気分転換を図ったりしています。入居者の写真を送ったり、オンライン面会でのご家族との交流が出来るようになり支援しています。	コロナ禍前は、花見、紅葉狩り、家族との外出等の機会があった。現在は、ベランダでの日光浴や施設周辺の散歩を日常的に行い、電車が通るとにこやかに手を振る等も行っている。コロナ終息後は、これまでの外出支援を再開したいと考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設長管理で必要に応じて出金している。希望に応じて、日用品・お菓子を購入している。ご家族からお預かり金を預かり必要な衣類等も施設で購入して、年間の会計報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は対応している。ご家族や親類の手紙などで交流を図られている。またオンライン面会の活用で身近に感じてもらえるよう支援したい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式の台所で調理中の音や匂いを感じられ、配膳時は時々手を出したくなるくらい楽しみにされている。昼間は明るく広いディールームで過ごして頂き、お天気のいい時はベランダに出られ(ななつぼし)の列車に手を振ったり、季節の花など観賞されゆっくり過ごして頂いている。	暖かい陽光が入る大きな窓からは、田園風景や電車の走る姿が見える。室内は天窓のある高い天井で解放感があり、入居者の作品や季節の花々、雛人形が品よく置かれている。また、換気や消毒も徹底され、職員は足音の響かない上履きを使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士やトラブルにならないように居場所を配慮して椅子やソファで過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みは少ないが、ご家族との写真や誕生カードなど居室に貼りご本人の居室と理解されるようにしている。	大きな窓と障子が設えてあり、畳の部屋も用意されている。また、家族の写真や手紙など、思い出の品が部屋に飾られ、個性あふれる居室づくりが行われている。家族とも話し合い、入居者の身体や疾患等を考慮しながら、ベッドや家具の配置を決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名前を掲示し、また目印になる飾りしている。トイレも解かるように表示している。床のバリアフリー化、廊下、浴室、トイレに手摺りを付けて安全で出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		